

巻頭言／単なる量的充足ではなく、必要なとき、必要な最善の福祉サービスを提供する役割 — 2

ベトナムから技能実習生受け入れ内定 岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館 — 3

西日本豪雨禍の倉敷へ京都DWATメンバーのスタッフ派遣 岩戸ホーム — 3

愛育園全8ヶ園が福祉サービス第三者評価新基準の受審完了 — 3

救急救命「手が震えた！」消防署員の指導で救急処置 3ヶ園合同 — 4

救急救命士迎えBLS(一次救命処置)研修 せつつ桜苑 — 5

「ふつう」ってなんだろう？ 愛育園全体初の人権研修 — 4

チーム仕事は相手の気持ちを受け止めよ！キャリアアップステージ研修II — 5

先輩からのメッセージ(保育/高齢者) — 4~5

「絵本通信」3年間で11冊発行、紹介絵本は計93冊 — 6

学童ボランティア体験で世代間交流 サンヒルズ紫豊館 — 7

トピックス — 8

園児が育てたスイカ割り



東生野愛育園は3~5歳児合同でスイカ割りをしました(8月28日)。幼児クラスの園児が5月末から園庭横に苗を植え水やりして育てました。もっとも猛暑の影響で例年より数も少なく実りもイマイチ。収穫した小さなスイカに「スイカの赤ちゃんや」。やむなくスイカを2個買い足しました。

目隠して棒を両手にスイカを目指し「あ〜ハズレた!」「割れた!」の大歓声。給食室で食べやすく切ってもらい美味しくいただきました。これも食育の一環です。

屋上に新しい組み立て式プール設置

第二愛育園はこの夏、屋上に新しい組み立て式プールを設置しました。定員増に伴い、これまで使用してきた組み立て式プールを増築棟の小園庭に移し、ひと回り大きいプール(3.2m×3.5m×0.7m)を新規購入したものです。「新しくて広いな〜!」と泳いだり、潜ったり、子どもたちは暑い夏を楽しく過ごすことができました。



園庭が拡張され「こっちでも遊ぼう!」

千里丘愛育園は、園庭に隣接の古い文化住宅の老朽化に伴い、今年5月から7月にかけて住宅を撤去、園庭の拡張工事(写真)を行いました。園舎の窓から、日々変わってゆく園庭に子どもたちは興味津々。新しい園庭が完成すると、「こっちでも遊んでいいの?」と広い園庭を元気に走り回る姿が見られました。



イルカの大ジャンプにくおー! 「スマスイ」で楽しむココリスの子どもたち

ココリス(障がい福祉サービス)は夏休みの外出イベントとして、放課後等デイサービスの子どもたち3名と公用車で神戸市立須磨海浜水族園(スマスイ)に出かけました。(8月3日)

スマスイではメインのイルカライブショーへ一目散。イルカの迫力ある大ジャンプを目の当たりにし、水しぶきを浴びながら「お〜!!」の大歓声。ペンギンやラッコ、世界の珍しい魚たちを見物し、涼しい館内でお母さん手作りの弁当をいただきました。子どもたちには素晴らしい思い出の一日になったと思います。



- 〔法人理念〕**
 1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
 2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
 3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。
- 〔サービス目標〕**
 1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
 2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。
- 〔老人施設経営方針〕**
 1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
 2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
 3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。
- 〔愛育園経営方針〕**
 1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
 2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
 3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2018年10月
 【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
 〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
 TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
 URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来
 創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。



巻頭言



単なる量的充足ではなく、必要なとき、必要な最善の福祉サービスを提供する役割

理事長 高岡 國士

社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、日ごろから皆様の多大なご協力、お力添えをいただき感謝とお礼を申し上げます。

非常災害時への情報共有、適切対応に万全を期す

今年は大阪北部地震(6月18日)に続き、西日本豪雨(7月上旬)や大型の台風21号(9月上旬)の風水害による自然災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらした一年として記憶されるのではないかと考えられます。被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、二日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

こういった災害が続く中で、とくに、大規模災害発生時の支援・配慮は、成光苑が展開する福祉サービスの実践にも通じるものがあると改めて感じています。また、当法人の福祉サービスを利用される高齢者や障がい者、乳幼児などの子どもについては、その際には要配慮者となれることが考えられ、関係各署とも連携しつつ、適切な対応ができるよう体制を整備することが求められております。このたびの災害を機に保育部門において、有事に備えるための法人研修としては初めて『非常災害時の対応』をテーマに実施いたしました。京都DWAT(デイワット)災害派遣福祉チームの二員として活動する高齢者部門のスタッフを講師に迎

え、西日本豪雨の被災地でのボランティア活動報告や、今後接近する台風に対する備えについて参加者で情報共有を図ったことは時宜を得た対応だったと考えております。

このように、非常災害が発生した時においても、成光苑のご利用者はもとより被災者の皆様に対して、継続的な生活支援・相談活動を支援するとともに、さらなる体制強化に向けて検討を重ねてまいりたいと思っております。

「利用者」に生きがいを 実感してもらえよう 寄り添うのが原点

度重なる自然災害だけでなく、平成30年度は介護保険報酬の改定もあり、多岐にわたる対応が求められる年となっております。

団塊の世代が75歳以上となる、いわゆる『2025年問題』は、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備が推進されることとなっております。

成光苑では、これまでも地域包括ケアの実現に向け必要な高齢者福祉事業を展開し、法人理念に掲げている「個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供」に努めてまいりま

したが、今一度、介護サービスを提供する側からご利用者への寄り添い方として、生き甲斐や喜びを感じることができる自立した日常生活を過ごしてもらえるよう原点に戻り、どのような状況になっても、質が高く効率的な介護が提供できる体制を構築していきたいと思っております。

使命を担いスタッフ一同さらなる精進を

自然災害や制度改定など私たちを取り巻く生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しています。が、老若男女を問わず、その人に必要なとき、必要なものを、必要に応じて、介護や保育などの福祉サービスを提供することが成光苑の基本理念にも通じることになります。

すべての福祉サービスが単なる量的充足ではなく、人が人として生きることを実感できる、その人、その子どもにふさわしい最善の福祉サービスの提供を継続していきけるよう努めていかなければならないと思っております。

これからも様々な場面に遭遇することになると思いますが、成光苑スタッフは「丸」となり、それぞれの部門において本来の役割を担い続けるため、さらに精進してまいりたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力のほどよろしくお願いたします。

学童ボランティア体験

折り紙などの制作を手助け

サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館(福知山市)で8月21日、地元の上豊富小学校の児童8名が学童ボランティア体験をしました。夏休みを利用したものです。

初めは緊張気味だった子どもたちもご利用者と一緒に、あやとり、お手玉など昔ながらの遊びに興じたり、折り紙や紙皿を用いた造花制作コーナーでは、子どもたちが積極的にご利用者を手助け。また、認知症への理解を目的としたDVD鑑賞では「すぐく勉強になりました」と頼もしい声もあがりました。「未来の福祉人材へ」と期待がふくらむ世代間交流となりました。



敬老の日

岩戸ホーム

日々青春を感じ前向きに!

ご利用者ら145名参加し長寿を祝う

岩戸ホーム第2期工事完了後初めての敬老式典・祝賀会が9月17日、『すずらんホール』で行われ、特別養護老人ホームご入居者78名、「サポートハウスいわと」ご入居者43名はじめ家族ら計145名が参加されました。

式典では安倍晋三首相と西脇隆俊京都府知事から100歳を迎えた方に祝いの賞状と記念品が贈られ、101歳(4名)の方もお祝いを受けられました。祝賀会では日本舞踊若柳流の演舞やカラオケ、スライドショーなどを楽しまれました。

ご利用者を代表し米寿(88歳)の方から「私たちも日々“青春”を感じて前向きに過ごしたい」と力強い言葉が寄せられました。



専用飲食スペースの 模擬店大盛況

せつつ稲苑が町の夏祭りに参加



せつつ稲苑(稗津市校町)は、地域イベントとして開催されている柳田地区連合自治会子ども夏祭り(7月22日)、オール桜町盆踊り大会(8月18日)に相次いで参加、多彩な模擬店(焼きそば、フランクフルト、たこせん、おでん、クレープ)を出店し大盛況でした。オール桜町盆踊り大会では、テーブル、イスを備えた専用の飲食スペースを初めて設置、地域の方から「おもてなしの心を感じました」「来年も楽しみにしています」といった声が寄せられました。地域のみなさんの笑顔に触れるのが楽しみです。

「これ、似合うかな〜?」と買い物楽しむ

吹田竜ヶ池ホームは8月14日、地域交流スペース(1F)を活用し、出張販売業者による衣類、日用雑貨、お菓子の販売会場(午後2~4時)を設営しました。いわば「出張デパート」。

特別養護老人ホームのご入居者だけでなく、同施設に併設されている竜ヶ池ハウス(高齢者向け優良賃貸住宅)にお住まいのみなさんも多数来場され、様々な商品



を物色。衣類を手にとり「この色違いもええな〜」「これ、似合うかな〜?」と買い物を楽しまれる女性のご入居者の元気な声も聞かれました。

高槻けやきの郷

“楽しいとこ”はビアガーデン

高槻けやきの郷では9月2日、夕暮れ時から5F屋上テラスで特設“ビアガーデン”を開き、ご入居者4名とご家族が参加されました。同施設では今年度から3ヶ月ごとに外出レクリエーション「楽しいとこへ飛びたい会」を実施していますが、今夏の酷暑に伴い安全に配慮して施設内イベントに切り替えたものです。

この日は近隣の淀川河川公園(枚方市)で『ライトアップフェスティバル』が開催中で、その締めくりに1250発の花火が打ち上げられ、ビアガーデンから目の当たり。「こんな近くで特等席や〜」の歓声が上がりました。ビールを手に打ち上げ花火見物、ご家族との思い出に残る一日となったと思います。



和太鼓演奏や触れ合い遊び ～ グループ施設の高齢者と交歓会 ～

認定こども園正雀愛育園の5歳児

認定こども園正雀愛育園ひばり組(5歳児)の子どもたち26名が8月18日、グループ内高齢者施設の岩戸ホーム(福知山市)を訪問、ご利用者のみなさんと交歓会を開きました。

岩戸ホームは今春、第2期(改築)工事が完了、新設されたばかりの真新しいホールで子どもたちは和太鼓の演奏を披露、ご利用者や介護スタッフから「上手やな～」と大きな拍手を送られ大喜び。



「幸せなら手をたたこう」の曲に合わせて触れ合い遊びも楽しみました。別れ際「もう帰るん?また遊びに来なん」と福知山弁で園児を抱きしめられるご利用者もみられました。おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでもお元気で!

認定こども園一津屋愛育園の5歳児

「可愛い手だね～」

～高齢者施設訪ね肩たたきなど和やかに～



認定こども園一津屋愛育園の5歳児(24名)は7月26日、近隣のシニアハウス花みずき(サービス付高齢者向け住宅)まで徒歩で訪問しました。短時間でしたが、子どもたちとご利用者のみなさんの和やかな世代間交流となりました。

子どもたちは和太鼓演奏や歌、ダンスを披露。「可愛い手だね～、いくつ?」と尋ねられ、少し恥ずかしげにはにかむ子も。小さな手で肩たたきをして触れ合い、ご利用者も大変感動されていました。

「座布団読み」で子どもと楽しんでま～す!



「絵本通信」好評

3年間で11冊発行 紹介した絵本93冊

地域子育て支援対策委員会が手がけている「絵本とともだち(絵本通信)」が2016年以來、3年間で「vol.10」と増刊号の計11冊を発行し、これまでに紹介した絵本が93冊にのぼりました。

保護者からは「絵本通信で「座布団読み」(親子で触れ合う機会の一つ)を知り、子どもと一緒に絵本を楽しんでま～す」「絵本通信の情報で絵本を購入しました」といった声が寄せられ好評です。

「絵本通信」は絵本の魅力と楽しさを親子に伝えるのがねらい。愛育園の保護者や各園の子育て支援室を利用される保護者から意見・要望を聞き取り年度ごとにテーマを設定、今年度は「子育てに関するワンポイントアドバイス」とし、表紙デザインのリニューアルやイラストと文字のバランスにも配慮し読みやすくしています。

敬老の日

園児の祖父母21名招き敬老の集い 孫と団子づくりにも挑戦

きりん夜間愛育園は9月19日、園児の祖父母21名を招待して敬老の集いを開き、長寿を祝いました。

集いでは初めに和室(2F)で5歳児たちが運び役となり抹茶と和菓子のおもてなし。園児たちも少し緊張気味。そのあと場所をホール(1F)に移し、歌を披露したり、肩たたきや触れ合い遊び。



団子づくりにも挑戦しましたが、「可愛い孫と団子をつくれて楽しかった」と目を細められる方も。祖父母と一緒に丸めた団子を食べる園児たちの笑顔が印象的でした。

来年6月には介護現場で実習



ベトナムから技能実習生受け入れ内定

岩戸ホーム4名、サンヒルズ紫豊館2名

成光苑(高齢者部門京都エリ)では8月8日にベトナム・ハノイで行われたベトナム人技能実習生選考会に参加、岩戸ホームの藤原義章、サンヒルズ紫豊館の岩吹泰志両施設長が出席し、厳正な選考の結果、岩戸ホーム4名、サンヒルズ紫豊館2名、計6名の技能実習生候補者が内定しました。

外国人技能実習制度は介護人材の確保を背景に昨年11月からスタートしたもので、成光苑が受け入れを内定したのは初めて。選考会場は、ベトナム政府から介護人材の送り出し機関として認可されている6社のうちの1社(社、ハノイ)が運営する短期大学で、日本からは成光苑を含め4法人が参加。応募者は16名、クレペリン検査と面接試験があり、実習生候補者には選ばれると「トメモウレ シーデス」と片言の日本語で喜びを表す姿も見られました。

吹田竜ヶ池ホームに アルバイト(資格外活動)2期生

「介護福祉士めざす」とベトナム人留学生2名は、成光苑(高齢者部門)は今年2月ベトナム人留学生(1期生)をアルバイト(資格外活動)として迎えました。引き続き8月17日、同国留学生2名とスカイプ(インターネット)を利用したテレビ電話面接を行い(写真)、この10月から2期生として吹田竜ヶ池ホームに受け入れられました。1期生と同様、日本語学校に通うかたわらアルバイトとしてお世話をしたい」「高齢者のお世話をしたい」などとお前向きな姿勢が好印象。将来は日本の介護福祉士国家資格を取得し10年以上日本で働きたい」という明確な目的を持っているようです。

西日本豪雨禍の岡山・倉敷市支援 岩戸ホームから京都DWATメンバーのスタッフ派遣 被災住民の相談業務にあたる

京都DWAT(京都防災安全ネットワーク)は、西日本豪雨(気象庁)平成30年7月豪雨で甚大な被害を受けた岡山県、京都府の被災者支援に、岩戸ホームから京都DWATメンバーのスタッフを派遣し、被災者の相談業務にあたる。岩戸ホームからは第6班のメンバーが8月9日から5日間滞在、地域の支援者と避難所住民をつなぐ活動にあたりました。避難所の相談コーナー「なんでも相談」で同県DWATメンバーとペアを組み相談業



務を担当。病気やケガ、避難所運営への意見、生活再建の相談など内容は多岐にわたったようです。要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児など)への巡回では、保健師チームとJRAAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)、DWATの関係団体が協働してアセスメントを行うなどDWATの福祉専門性が他チームからも求められていることを確認。社会福祉法人の使命は「ご利用者に災害発生が重要で、期待される役割であることも再認識できたと報告されています。」

「訓練を積み重ねたい」 災害時対応 京都府総合防災訓練

京都府総合防災訓練が9月2日、綾部市総合運動公園で開催され、京都府防災会議委員でもあるライフステージ 舞夢の上野施設長(府防災委員)ら参加。上野由香子施設長らが参加しました。土砂災害で道路が遮断されたことを想定し陸上自衛隊が土砂を取り除く作業、緊急車両が現場で活動する訓練、防災グッズの展示ブースなどを見学。中丹地域での直下型地震や水害の複合災害を想定、関係機関の連携による救出・救助訓練を積み重ねたいと思っています。

成光苑保育部門 すべて受審完了

福祉サービス第三者評価新基準

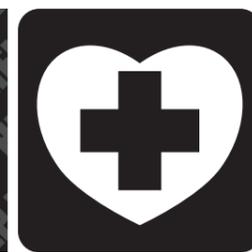
成光苑保育部門は29年度から全園で福祉サービス第三者評価の受審を進めてきましたが、今年度に、くるみ小規模保育園、認定こども園一津屋愛育園、東生野愛育園が受審、昨年度の千里丘愛育園、認定こども園正雀愛育園に続き福祉サービス第三者評価受審をすべて無事完了しました。成光苑では第三者評価への理解を深めつつ組織の運営管理や保育内容、記録の整備など全70項目の視点から見直しを行い、審査当日の視察、評価基準や提出書類を基にした各職種へのヒヤリングなどに対応。「文章表現(書類作成)に苦労したが仲間が助けてくれた」「保育を見つめ直す機会になった」などの声も聞かれ、チームとしての絆を深めることができました。それぞれの園で明確になった課題を日々の保育にフィードバックし、さらに充実した福祉サービス向上に努めたいと思っています。

福祉サービス 第三者評価受審 WAM NET





救命救急



BLS(一次救命処置)研修 せつ桜苑 救急救命士迎え福祉施設向けの急変時対応

せつ桜苑は5月15日、協力病院の医誠会病院(大阪市)から救急救命士3名を迎え、BLS(一次救命処置)講習を受講、スタッフ10名が参加しました。

医誠会病院が地域貢献の一環として実施する福祉施設(施設職員向け)対象の講習会で、せつ桜苑が初めての実施対象となりました。

BLSとは、呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するため、特殊な器具や医薬品を用いずに行う救命処置。胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法(CPR)、そしてAED(自動体外式除細動器)の使用を主な内容としています。

救急救命士から冒頭「緊急時は周辺の安全確認や周りの人を集め、救急車を依頼することが大切」と説明があったあと、練習用のマネキンやAEDを使って実際の流れを実演。受講スタッフからは「練習とわかってはいるけど緊張した」「同様の講習を受講したことがあるが、理解が深まった」といった声が聞かれました。

キャリアアップステージ研修Ⅱ(大阪会場)

高齢者部門「2018年度キャリアアップステージ研修Ⅱ(大阪会場)」が8月27日、せつ桜苑会議室で「生産性の高い会議運営力を身につけるためのスキルとは一相互理解を容易にする話し合い」をテーマに開催されました。講師は(有)レイズ代表取締役の増田知乃氏。中間管理職に求められる知識やスキルを習得し、リーダーシップ力を磨くのが目的。主任・係長クラスら31名が参加しました。

えたものです。演習(グループワーク)では「レゴ®ブロック(写真)」を活用した問題解決手法やコミュニケーション手法、例えば同じ制作物でも人により大きさや選ぶ色が違うように、チームとしての仕事は相手の状況や気持ちを受け止めるコミュニケーションの大切さが取り上げられました。自分の価値観を表現すること、他のメンバーの価値観を知り共有することの重要性を身に付ける機会となったようです。

～先輩からのメッセージ～

「いつ来てもイイ雰囲気！」

吹奏楽部員で夏祭りに参加、介護スタッフの対応に触れる



高橋 星子
高槻けやきの郷
平成30年度入社

私は、現在の職場(高槻けやきの郷)近くの高校の吹奏楽部員で、夏祭りで演奏する機会が幾度もありました。その際、スタッフのみなさんはご入居者に対してだけでなく、私たちに丁寧な対応と笑顔で接してくださり「いつ来てもイイ雰囲気」と感じていました。介護の仕事を目指すことに決めたくっかけで、あれから4年、スタッフの一員として仕事をしています。わからないことも少なくありませんが、先輩からのアドバイスやご入居者の笑顔に支えられ日々頑張っています。

将来の仕事はこれだ！職場体験で子どもの笑顔に感動、夢かなう

先輩の保育に学びつつ自分の保育を



鶴田 梨乃
くろみ愛育園
平成30年度入社

保育士を目指すきっかけになったのは、中学校職場体験で保育園の先生と子どもたちの笑顔を見て「将来、子どもと関わる仕事に就きたい」と考えるようになったから。そして今、その夢がかなう、子どもたちと楽しく過ごしています。保育者として悩むこともありますが、子どもたちの笑顔や成長を目の当たりにすると、大きなやりがいを感じます。これからも先輩方の保育に学びながら、自分の保育につなげ、子どもたちの頑張りを支えていきたいと思っています。

チーム仕事は相手の状況や気持ちを受け止めよ！主任、係長ら31名参加



テーマに開催されました。講師は(有)レイズ代表取締役の増田知乃氏。中間管理職に求められる知識やスキルを習得し、リーダーシップ力を磨くのが目的。主任・係長クラスら31名が参加しました。

“桜苑版ソフト食”に取り組む せつ桜苑

噛む力の弱い方も安全においしく 他職種と協働

せつ桜苑では今年度から他職種と協働、「桜苑版ソフト食」に取り組み、食材や料理の見た目(形状)は普通の食事ながら、噛む力が弱い人でも食べやすく軟らかさのある食事の提供を目指しています。

今年8月21日、管理栄養士や調理員らが「やわめし」を実践されているという和歌山市の医療法人鑑友会 特定施設介護付有料老人ホーム「BLISSぶらくり」を見学。「やわめし」の試食では、どの料理も「ふんわり」と軟らかく、食材の切り

方や盛り付けの器(茶碗、皿、箸置きなど)にもこだわりがみられました。

せつ桜苑でも「酵素」で食材を軟らかくしたり、圧力鍋を使い、たんばく質や繊維を分解する調理方法で、噛む力や飲み込む力の弱いご利用者にも提供できるようになってきました。今回の見学も参考に、ご利用者に安全でおいしく食べてもらえる食事づくりに工夫を重ねることにしています。



漢字教育 夏期指導者研修会

漢字遊びの取り組み、保育担当制について実践発表 第二愛育園 天野保育スタッフ

第50回石井式漢字教育夏期指導者研修会(NPO法人日本漢字教育振興協会主催)が7月27日、千葉県柏市の認定こども園手賀の丘幼稚園・保育園(学校法人祁山学園)で行われ、全国から60名の保育者が参加、当法人から第二愛育園の天野芳昌保育スタッフが実践発表しました。内容は、漢字遊びの取り組み状況の報告と園の特色(ことば遊びや保

育担当制)についてパワーポイントを使い説明。「多くの先輩保育者の前で緊張しました」と天野保育スタッフ。また、山崎美知子氏(同協会)による漢字絵本・かるた・百珠算盤の実技講習、国字研究の第一人者、笹原宏之氏(早稲田大学社会科学総合学術院 教授)は「漢字の成り立ち」について講演されました。

「ふつう」ってなんだろう？
人権意識を高め、
日常の行動、
言葉遣いを見直す

愛育園全体初の人権研修

成光苑保育部門では6月30日、愛育会館で愛育園グループ全体では初めての人権研修が行われ、各園の保育スタッフら42名が参加しました。

「ふつう」ってなんだろう?をテーマに講師は栗本敦子氏(Facilitator's LABO(えふらぼ))。日常生活で人権を身近に感じ、人権意識を高めるのがねらい。栗本氏は、ふだん何気なく使っている「ふつう」という言葉によって「無意識に人を傷つけてしまうことがある」と指摘され、豊富な事例を紹介されました。研修を通じ、日常の自分自身の行動や言葉遣いなどを振り返り、「人権」について認識を改める貴重な機会となりました。



他法人の保育者も参加

“抗重力筋”を鍛えようーリズム運動 自発的な身体運動を促すにはー乳幼児運動遊び



保育部門の『乳幼児運動遊び&リズム運動研修会』が8月18日、愛育会館で(株)ハートウイングと共同開催され、愛育園保育スタッフ21名のほか、宮城県(2名)、千葉県(1名)、岡山県(5名)、和歌山県(3名)の他法人の保育者も参加、講師は、乳児運動遊びが原 浩介氏(ハートウイング)、リズム運動は春本繁子氏(成光苑理事)が担当されました。

乳幼児運動遊びでは、握手ゲームなどを通じたコミュニケーション方法や鉄棒など運動器具を使う遊びから子どもたちが自発的に身体を動かすような運動遊びの導入方法を演習。原氏は、保育所保育指針改定(4月1日)に伴い「子どもが主体となる保育を行うには環境設定や子どもへの働きかけ方が大事になる」と指摘されました。リズム運動では①目的・動きのポイント②年齢に応じたリズムの内容③集団でできる楽しい動きーなどに分け演習。「リズム運動は背筋を伸ばし身体がしっかり支えられる“抗重力筋”を鍛えることが大事」(春本氏)という。参加者から「子どもたちとリズム運動に向き合う大切さ、指導する立場の責任の重大さを改めて教えられた」などの声が聞かれました。